

9. 三橋 聖香

河川の特性に合わせた流域治水対策

要旨

近年日本では、異常気象による大雨や、台風の到来などにより年々降水量が増加傾向にある。そのため、河川の氾濫や水位の上昇などの水害が問題視され、往來行っていた治水対策から名前と対象範囲を変更し、流域治水対策へと修正され、都市河川だけではなく地方の河川にも対策を行う必要があることが明確かされた。このことから、全国であらゆる河川が水害に備えて流域治水対策を行うべく計画を進め、日々奮闘している。流域治水対策には様々な方法が存在するが、果たしてすべての河川に同じ対策を行うだけでいいのか。

本研究では、一級河川であり都市河川である鶴見川と大和川を対象として、過去の水害や現在行っている流域治水対策を確認し、河川の地形や地域の特性に合わせた流域治水対策が必要であり、対策の効果を上げる可能性があることを提言する。